

---

# 理由がない悪意のクエスト。

オシノ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

理由がない悪意のクエスト。

### 【Nコード】

N2565Z

### 【作者名】

オシノ

### 【あらすじ】

生活に困った冒険者。つまり僕のことなんだがお金欲しさについて、身の丈に合わない仕事を請け負ってしまった。スライムにトロール。マッドサイエンティストが造った【キラーマシン】、拳句の果てにはベテランの冒険者、あまつさえ王家に選ばれた勇者でさえも手を出さない魔女とまでやりあうことになってしまう。一緒に戦ってくれる仲間もいなければ、友達もない。孤立無援の貧乏人が、レベル不相応のクエストに挑む冒険ファンタジー。

+++冒険のはじまり+++

お金がない。

安定した収入もない。

人望もない。

恋人もいない。

このままでは、魔王を倒す戦士としてやっていけるかの自信もない。

いや、自信が無いのなら取り戻せばいいのだが、問題はそんな簡単なモノではなかった。

この先冒険者としてやっていく展望がなかなか見えないからだ。要するに、今現在のこの職業に一抹の不安を持っている。

考えてみれば三年前。

「僕は、世界一の冒険者になる」と言って実家を飛び出さしたは良いが、現実はそのなりに甘くなかった。

勇者一族の血統を引く人間なら、王家から経済的な支援を受けられるし、なにか他の冒険者が持つてないような特技（例えば魔法）を持つていればギルドからスカウトがきて仕事に困ることもない。

のだが、僕はサラブレッドでもなければ他人より秀でた特技もない。

国からの支援も無ければ、ギルドに頼ることもできない。

冒険者という人生に僕は完全に行き詰っていた。

しかし、食べていくためにはモンスターや賞金首を倒してお金を稼がなければならぬ。

今住んでいる部屋代は二カ月滞納しているし、水も止められた。

僕は情報を集めるために酒場に来た。酒場のいつかには情報幹旋所がある。

そこには、この地域一帯の情報が集まってくる。

賞金首や、倒すとお金がもらえるモンスター。新しいダンジョンが近場で発見されればそれを教えてもらうこともある。

酒場の端っこにあるカウンター。そこはお酒を飲む場所とは別の場所にある。

カウンターは、一人がけの椅子に狭いテーブルがあるだけ。

そこには、何年もこの仕事を続けているのであろう、手と顔に長い時間を物語るシワが深く刻まれたバアさんが座っている。

「仕事の情報を貰いにきたよ。バアさん」

「おお、また来たのかい。ご苦労さんなことだね」

お互い名前を知らない。それくらいの薄っぺらな関係なのだ。仕事の情報を聞ければ僕はそれでかまわないと思っている。

「それでどうだい、なにか良い仕事はあったかな？」

「良い仕事はみんなギルドに持ってかれちまってるよ。場末のこんな所に回ってくる依頼はどうしようもない下らないものか、ギルドや勇者でも手に負えないようなドギツイ仕事だけさ」

そんな仕事はやりたくない。

けど、食べていくためにはやるしかない。お金がないのだ、仕事を選べる立場ではない。

「死なない程度に、レベル3の冒険者でもこなせるような簡単なクエストをお願いします」

「うーん、レベル3ねえ。今は初心者にちょっときびしいような

仕事しかないねえ。アンタ特技はなんだい？」

「……特にありません」

自分に自信が無かったので小声でささやくように言うと、

「なんだって？聞こえないよ！」年寄りの耳には聞こえなかったらしく聞き返された。

「うーん、特にないんだけど、しいて言えば孤独に耐える能力が高いですかね」

聞こえるように少し大きめなけで言いなおした。

「……使えないねえ。今の時代は人より秀でたものが一つ二つ、いや三つ程ないとやっていけないよ。だいたい孤独に耐えるって仲間がいなくてもいいだけだ。それじゃあウイークポイントだよ」

「……」

言われてみればバアさんの言うとおりだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2565z/>

---

理由がない悪意のクエスト。

2011年12月9日02時13分発行